

特集

ベストソリューション

での物流最適化の手法として推奨。各社の館内物流の取り組みを紹介する。

納品予定表で車両分散

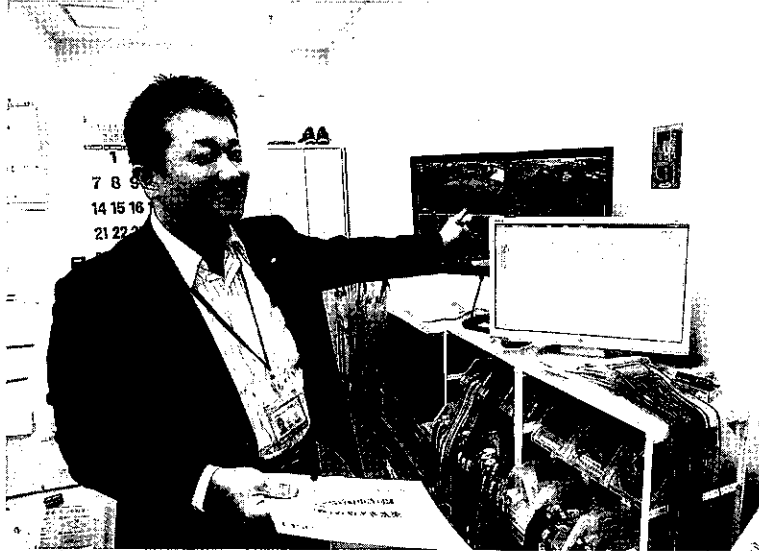
SBSロジコム

SBSグループのSBSロジコム(鎌田正彦社長、東京都墨田区)は、施設内とビル内の物流を一元管理

する「タスカルシステム」を基に、館内

感を高めており、当面の受託目標を累計10カ所(現在の実績は6カ所)に設定している。

複合用途施設「二子玉川ライズ」(世田谷区)は、請け負っている案件の一つ。広大なエリア(延べ床面積27万平方メートル)をカバーしており、サービス対象テナントは350を数える。1日に4千~6千個に達する貨物をスムーズに動かすため、納品タイムスケジュール表をつくって最大600台の車両を分散させている。



「館内物流は接客業だと考えている」と石川課長

施設の地下では三つの物流センター(荷さばき場)を運営している。直納業者には事前登録制を採用して入館と退館を厳格に管理。また、宅配会社など契約する50社の集配貨物だけでなく、オフィスに新聞を届けたり、仕出し弁当の発注・

入退館管理に事前登録制

配達も行っている。「館内物流は人との関わりが本場に多い。そうした中で自然にニーズが生まれる」。営業本部3PL営業開発第四部の石川竜太郎課長(42)は「館内物流は物流の中で最もサービス業に近い。接客業だと考えている」と語る。

ハンディーターミナルで宅配貨物の伝票を読み込み、テナントからの問い合わせに即答。クローカーサービスも手掛けるほか、中学生の職場体験にも協力する。更には、監視カメラの設置や左側通行の提案に加え、スタッフは施設のロゴをデザインしたユニフォームを身にまとうなど、安全・安心の確保にも貢献している。

石川氏は「お客さまとの日々のやり取りの中で様々な相談が寄せられる。それに一つずつ応えていくのはすごくやりがいがある。SBSグループの経営資源を活用し、あらゆるニーズに応じていきたい」と話す。

(沢田顕嗣)

館内物流、大規模